

I 活動の目的

活動の目的は、講演会とシンポジウムを開催し、ホームホスピスという新しい在宅の形態を伝えると同時に、しだいに広島県内にも広がっている現状を一般市民にも伝える。具体的には、2016年度はテーマとして「家で最期まで過ごしたい人へ～ホームホスピスという選択」を掲げている。

基調講演会は、地元広島で活動している臨床社会学者 /春日キスヨ氏を予定している。春日氏は、臨床社会学者として、高齢者の暮らし方や介護について、ジェンダーの視点からとらえており、地元の新聞にも「夕映えのときー人生90年時代」を連載し、老いることとその介護について語っている。

同時にシンポジウムを行い、パネリストには、ホームホスピスの代表の栗山恵子（ホームホスピスマろんの家）、亀田浩子（ホームホスピスゆずの家）、在宅での看取りを長年取り組んでいる訪問看護認定看護師杉本由起子氏、全国のホームホスピスの現況について広島都市学園大学健康科学学部看護学科の松原みゆき准教授が話し、聴衆者らとディスカッションした。

遅々たる歩みではあるが、一地方の広島で、仲間たちが共に活動していることを報告し、情報公開を実施する。

II 活動の内容・実施

活動方法は講演会とシンポジウムである。

【開催日時】：2016年11月19日（土）午後13：30～16：00

【開催場所】：公益財団法人広島市文化財団 まちづくり市民交流プラザ5階研修室C
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号

電話：（082）545-3911 参加費：無料

【参加者数】：医療、介護関係者および一般市民、約50名（会場60名収容）

【開催内容・実施】：講演会とシンポジウムを開催し、ホームホスピスという新しい在宅の形態を伝えると同時に、しだいに広島県内にも広がっている現状を一般市民にも伝えた。

4回目の今年は、初参加者が3/4を占めていた。参加者からも積極的に発言があり、活発にパネリストと話を深め、お互いに理解することができた。例えば、「現状親族を施設に入所させているが、家族で看ることはとても大変であり、いろいろ不満もあるが、話をする中から現状に感謝していることに気づくことができた」と話された。単にホームホスピスがよいという話しではなく、現状のその方の変さも受容しながら話し合った。

終了時にアンケート用紙回収（回収率50%）した結果を一部記す。

参加者のコメント欄には、実態や現状がわかり、今後どのように応用するのが宿題である。自身のこれからの事、真剣に考えなければいけないと思う。一人では難しいので、仲間おしゃべりから始めたい。地域のつながりをどうしたらよいか考える。まろんの家や

ゆずの家を見学したいと思った。施設とホームホスピスの違いがよくわかった。その人がその人らしく、寄り添っている様子が伝わった、など肯定的であった。

参加者の属性については、下記の表にまとめる。

1 参加者の年齢

40代	50代	60代	70代	記載なし
3	7	9	5	1

2 性別

女	男	記載なし
19	5	1

3 住まいの地域

広島市内	広島市外	その他	記載なし
19	5	0	1

4 どこで講演会・シンポジウムのことを知ったか

チラシ	友人	Facebook	その他	新聞	記載なし
16	4	1	2	0	2

Ⅲ 活動の成果

平成 29 (2017) 年には、広島でホームホスピスを始め、5 年目を迎える。今回の助成金をいただき、その取り組みの経緯や活動の様子をまとめてパンフレットを作成することができた。この成果物を使い、平成 29 年度には広島のホームホスピスで協働して、広く一般市民に広報することが可能となった。

また、ホームホスピスではないが、「家で最期まで過ごしたい人」にケアを提供する仲間も育っている。例えば、平成 29 年春には『ホスピスホームみなみ』が、ホームホスピスまろんの家と同じ広島市佐伯区に開設される。また、広島市の隣になる東広島市では、在宅での看取りを積極的に支援している訪問看護認定看護師らである。他の団体ではあるが「高齢社会をよくする女性の会・広島」（代表：春日キスヨ氏）とも協働している。

Ⅳ 今後の課題

今後の課題は、「家で最期まで過ごしたい」という人たちの支えとなり、ホームホスピスの活動を継続していくことである。引き続き、この活動内容を広く一般市民に広報し、彼

らの多様な希望に沿うことを課題と考える。

V 活動の成果等の公表予定（学会・雑誌）

まず、活動の成果等の公表予定は、2017年の春（日程未定）と、11月18日（土）に講演会とシンポジウム、鼎談（日程未定）を開催予定である。今回の成果物であるパンフレットを配布する予定である。

また、2017年5月27日（土曜日）～6月1日（木曜日）にスペイン・バルセロナ、バルセロナ国際会議場（Centre de Convencions Internacional de Barcelona）で開催される、ICN2017において“*Choosing end-of-life home hospice care based on the experience of palliative care specialists for senior citizens in an aging society*” を発表予定である（ポスター発表は5月29日）。